



大阪大学基礎工学研究科棟と太陽電池パネル試験場にて(左から2人目)



大阪大学名誉教授

## 濱川 圭弘さん

川西市在住。昭和51年に大阪大学基礎工学部電気工学科教授、平成4年に同大学極限物質研究センター長(併任)、8年に立命館大学理工学部光工学科教授、10年に学校法人立命館副総長と立命館大学副学長、15年に立命館大学総長顧問を歴任。現在は大阪大学名誉教授を務める。

27年度文化功労者に選出

## 市民栄誉賞に輝く

世界が認める研究で市民に夢と誇り  
 太陽光発電の第一人者



川西市在住で大阪大学名誉教授の濱川圭弘さんが、27年度に、文化の向上発達について特に功績の顕著な者として「文化功労者」に選ばれました。

市民に夢と希望を与え、全国的に名を高めた業績から1月27日「市民栄誉賞」に選出され、2月8日に盾と銀杯が贈られました。

市民栄誉賞は、誇りあるふるさとづくりのために活躍し、全国的に名を高めた個人または団体に贈るもので、郷土愛の醸成や市民意識の高揚を図ることが目的。濱川さんが4人目の受賞者となります。

太陽光発電の分野で研究を続けた濱川さん。その成果が世界的に認められました。

「太陽光の持つクリーンエネルギーを活用すること

は、日本はもちろん世界にとって絶対に必要なものになる。将来はこの技術で砂漠を緑化したい」という思いで、太陽光発電の黎明期から研究を続けてきたそうです。

アモルファスシリコン系太陽電池の変換効率を向上させるための先駆的な研究など、太陽光発電領域の発展に多大な貢献を続け、世界中から「太陽電池のDr.Hamakawa」として知られるまでになりました。

また、これまでの功績により、紫綬褒章や瑞宝中興章、WCPC 第1回国際大賞などを受賞しています。

### ■ アモルファスシリコン系太陽電池

光を多く吸収できるというメリットがあり、薄い膜厚でも発電できる特徴を持つ。ガラスやステンレスなどにアモルファスシリコンのフィルムを張り付けて発電することも可能で、軽量で加工しやすいため、丸いものや四角いもの、複雑な形、曲げられるものなど、これまでにない太陽電池を作ることができる。その用途は多種多様で、電卓やソーラー電波などの腕時計、センサーライト、カーアクセサリ、バッテリーチャージャー、携帯電話などのモバイル機器、緑石マーカーなどのLED点滅などに使用されている。身近なところで数多く活用されており、私たちの生活になくってはならないものになっている。

### CHECK & QUIZ

次の空欄(○の中)を埋めてください。

1: 施政○針を表明 2: 火災を○防する

クイズ正解者の中から図書カード(1,000円分)を5人に差し上げます(正解者多数の場合は抽選。当選者のみに送付します)。応募方法: ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、今号で興味のある記事と感想を書き、3月10日(木)(消印有効)までに〒666-8501・広報課「クイズ」係へ。

※2月号の正解は(健)(明)で、119通の応募がありました。

### 1月末現在の人口

男……………76,126人(-76)

女……………83,902人(-50)

計……………160,028人(-126)

世帯数…68,976世帯(-29)

